

株式会社 WOWOW プラス 番組審議会議事録 (2020 年 7 月分)

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い開催を中止し、審議員による書類審議を実施。
[審議員] 青木眞弥、池ノ辺直子、音好宏、高寺成紀、富澤一誠、村上典史子、湯浅正敏
(以上 50 音順、敬称略)

審議事項： [審議番組] 特集：生誕 100 年レイ・ハリーハウゼン

<番組概要>

特撮の歴史は、レイ・ハリーハウゼンで始まった。

スティーヴン・スピルバーグやジョージ・ルーカスから PIXAR、さらには「ゴジラ」まで、20 世紀の映画技術の進歩に多大な影響を与えた特撮の神様レイ・ハリーハウゼン (1920 年 6 月 29 日生～2013 年 5 月 7 日没) の生誕 100 年を記念し、現代の映像表現の原点とも言える代表作の数々を全 11 作品、3 ヶ月連続で特集。

初期作品の『世紀の謎 空飛ぶ円盤地球を襲撃す』『地球へ 2 千万マイル』『水爆と深海の怪物』の 3 作品は劇場公開当時のモノクロ版ではなく、ハリーハウゼン監修により着色化しモンスターたちがより生き生きと色付いたカラーライズ版の素材で放送。

審議内容： ■審議員意見

- ・他のチャンネルではあまり見られない、シネフィル WOWOW らしい特集企画である。番宣もレイ・ハリーハウゼンの独創的な特撮技術がよく伝わり、作品を観てみたい気持ちにさせる内容なので、もっと長い尺などのバリエーションを増やしても良かったと思う。
- ・3DCG を観て育った世代の視聴者には、ダイナメーションの気の遠くなるような制作過程を描いたメイキング映像や、ハリーハウゼンに影響を受けた映像作家達のコメント、仕事ぶりなども合わせて放送すると、彼の凄さがより伝わったのではないかと。
- ・特撮技術とは、コンピューターなどがまだ普及していない時代だからこそ人間の頭で考えたアナログならではのアイデアであり、そこに特撮の良さがあるということも、もう少し分かりやすくかみ砕いて説明して欲しかった。
- ・番宣としてはハリーハウゼンの高い芸術性や完璧な職人技、彼が息を

吹き込んだモンスターは怖いかと思いきやどこか愛嬌もあるということ、若い人や初めて観る人にも分かりやすく伝えられていて良かったと思う。

- 番宣はどちらかというとコミカルな表現となっているが、『アルゴ探検隊の大冒険』の人間と骸骨が戦うシーンなどは特撮の醍醐味やスペクタクルを感じるので、同じ内容でもより特撮の世界に惹き込むような刺激的な番宣を期待したい。
- 『地球へ2千万マイル』などのカラーライズ版については、ハリーハウゼンが製作時にカラー撮影を望んでいたが当時は予算の関係で叶わず、後年に本人の監修で実現したものであることを、もう少し詳しく説明の上で大きく宣伝しても良かったのではないか。
- コアな映画ファンの視聴者も多いシネフィル WOWOW ならではの特集企画で、作品のラインナップも充実していたといえる。シリーズものや俳優・監督の特集なども必要だが、このような他のチャンネルにはあまりない切り口の特集もどんどん放送して欲しい。

連絡事項： 次回番組審議会は、2020年10月15日（木）開催予定。

以上